

# 師弟間の建設技能継承に関する「羅生門」式ライフストーリー研究

1150484 山崎 祥悟

高知工科大学マネジメント学部

## 1. 概要

現在、日本の建設業界では、若者離れと技能労働者不足が問題となっている。特に技能労働者不足に関しては、技能の継承自体が難しいことが原因の一つとなっている。本研究では、建設技能労働者同士の、師弟関係が成立する条件を明らかにすることで、技能の継承活動にとって良い影響を与える条件を明らかにすることとした。その結果、いくつかの条件を発見することができた。

## 2. 背景

近年、日本の建設業界では、若者離れと技能労働者不足が問題となっている。その大きな原因としてバブル経済破綻以降の建設投資額の大幅な減少と下請構造の重層化が考えられる。また、若者の建設業界に対する3K（きつい・汚い・危険）という印象が定着していることも原因とされている。また、技能労働者不足に関して言うと、それらの社会的要因の他に、重機のオペレーションそのものが難しく、技術の継承自体が難しいということも原因として挙げられる。

## 3. 目的

本研究は、建設技能者間で、師弟関係が成立する条件は何であるかを明らかにする。師弟関係が成立する条件を明らかにすることで、技術の獲得と継承の為の方策検討に資する知見を得ることができるとしてそこから、若い世代にとって魅力となること、そしてより熟練度の高い技能労働者を教育していくための方法を見出す為の概念を得る。また、本研究で研究対象者とした2人の重機オペレーターは技能について連日連夜酒と議論を交わした濃密な1年間を過ごしているが、なぜそのような「奇跡の1年間」が成立したのかを明らかにする。さらに、本研究を行うことで、公共事業や住宅の需要が増えている現状の中、若い人達にどのような魅力のある業種なのか、どういった生きがい・やりがいのある仕事なのかを記録し、その魅力を世に伝えるという効果も期待できる。

## 4. 研究方法

### 4.1 研究スタンスとしての羅生門的手法

羅生門的手法とは、関係のある複数の研究対象者に同じ出来事をお互いに独立に語らせるといった手法のことである。文化人類学者オ

スカー・ルイスが、60年代に黒澤明監督の映画『羅生門』をヒントに考案、実践した。「家族の各構成員が自分の言葉で自分の生涯を語るという新しい方法」であり、「家族の多様な構成員が同じ出来事をお互いに独立して延べることによって、資料の大部分の信憑性や価値をそれ自身で検証することができるし、従って、一個人の自伝に内在する主観性を部分的に浮かび上がらせることができるのである。と同時にそれは家族の各人が事件を思い出す際の食い違いも明らかにする。」というものである。本研究ではこの考え方を踏襲してデータ分析収集にあたった。

### 4.2 研究対象者の選定

今回は、以前師弟関係にあった元重機オペレーターで建設会社社長のA氏と現重機オペレーターB氏を対象とした。

#### A氏 (A建設社長)

B氏とはB建設で6年間一緒に重機オペレーターとして働いていた。重機オペレーション技術に関しては相当な自信を持っている。現在は父親のA建設会社を継いで社長となっている。

#### B氏 (B建設重機オペレーター)

A氏とはB建設で6年間一緒に重機オペレーターとして働いており、現在もB建設で重機オペレーターとして働いている。B建設ではトップクラスの重機オペレーション技術を持っている。

### 4.3 データ収集方法

本研究は、第一に、師匠と弟子の2人の人生史を明らかにすることで、師匠とその弟子の方、2人に聞き取り調査をし、その方々がどのような人生を歩んできたのかを研究スタンスとして羅生門的手法を用いてお聞きする。そして両者の相互作用について調べることで、2人の建設技能者に師弟関係が成立する為に、師匠と弟子それぞれに課される条件となるのかということを知ることができる。

### 4.4 分析方法

まず研究対象者のお二人の人生について詳しく調べ上げ、それぞれの人生像を見る。調べ上げた人生の中で、複数のエピソードから類似点を抽出し、下記の図4-1の分析ワークシートを用いて、その人となりを表す概念を生成する。生成した概念間の繋がりを調べる

ことで、師弟関係が成立した条件を明らかにすると同時に、お二人が何故奇跡の1年間が何故実現したのかを明らかとする。

#### 4. 5分析ワークシート

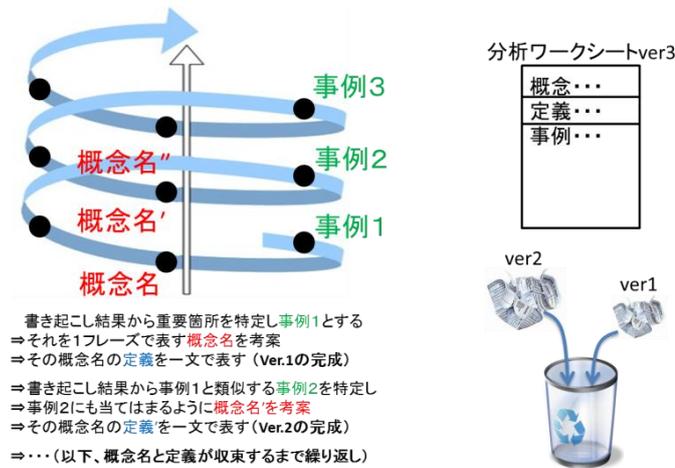


図4-1 分析ワークシートの作り方

### 5. A氏の分析結果

#### 5. 1 A氏の概念生成

##### 5. 1. 1 事例群 1

(現場での働きぶりについて)

事例①「専務さんに言われた工期の半分で、自分は終わらすけん絶対儲けちよらあね。自分にほら、ここまでやっても大丈夫いうところがあるがやけん。もう、人が見たら目が痛いと言われるようなこと僕しよったがよ。片輪走行で、山へ登ってみたいね。」

事例②「専務さんも「ミニ(のユンボ)で上がってもらえんろうか」とは言いよったわ。俺は「ミニ(のユンボ)で上がっていたら下請け損するから、太いがで上がらせてくれ」という相談はしたね。」  
 これらの事例から、事故をするリスクが高まるにも関わらず、より収益をあげることのできるような重機の運転をするような行動をとるとして定義をつけ、概念名「危険ストレスの収益確保行動」を考案した。

##### 5. 1. 2 事例群 2

(若い頃、何か危ないことをしたエピソードはありますか?)

事例①「バイク乗ってこのスカイライン7分で抜けてみたい、車で速さを競って競争しよったね。」「死んでもえいわいう感じで乗りよったがやろうね」

(幼少期、家の前の保育園に弁当を持ってくる女の子について)

事例②「サバが弁当に入っちゃうやろ?それを再々食うちやった。」  
 (弁当を食べて怒られるとは考えなかった?)「そんなこと考えて

なかったんだろうねえ。食べたい一心で、食べたんだろうね。」

これらの事例より、デメリットを被る可能性があるにも関わらず、自分がしたいと思った行動を取ると定義をつけ、概念名「リスク無視の本能的行動」を考案した。

##### 5. 1. 3 事例群 3

(印象に残っている元請の若い技術屋さんはいませんか?)

事例①(元請の若い子に無理を言う主任に対して)「ワシ頭に来てね、主任に岩検を受けてくれと言われたけど、「やかましい、まだ岩は出てない、後輩をいじめるようなやつ言うことは俺は聞かんぞ」って言ってやったね。」

事例②(ガキ大将として何かしてあげたことは?)

「青年になってからの話で、古くから知り合いの国際ホテルの板前から助けを求められてね、その板前をやっつけに来ていたやつらがいたけどね。「俺の知った子やけん、お前らいらんことせんと帰れ」って怒鳴ってケンカさせずに帰らせたことがあるよ。」

これらの事例より、慕ってくれている人に対して、困っている時は庇ってあげたり、慰めてあげたり、時には困らせる要因に対して攻撃的に立ち向かってあげるなど、母親的な行動を取るとして定義をつけ、概念名「慕ってくれている人への母親的愛情行動」を考案した。

これら3つの概念の他に、重要な概念として、概念「慕ってくれている人への母親的愛情行動」と繋がる概念である「弟子に全てを伝授した1年間」と、その「弟子に全てを伝授した1年間」と概念「危険ストレスの収益確保行動」、概念「リスク無視の本能的行動」の3つと繋がる概念「会社第一主義」という概念を生成した。

##### 5. 2 A氏の概念間の繋がり

以上に述べた5つの概念以外にも、5個の概念が作られたが、それぞれの全体像を図示し、その概念間の論理的関係を合わせて示したものが、以下の図5-1である。図中の線は、異なる概念同士でも共通した側面があると確認された場合に、その概念同士を繋ぐものである。また、赤い文字の文章は異なる概念同士が共通していると考えられる要素についての説明である。

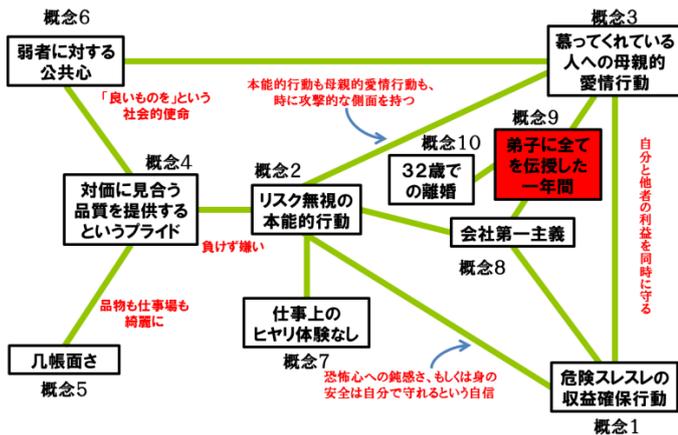


図5-1 A氏の概念間の繋がり

図5-1より、まず概念1と概念2は、恐怖心への鈍感さ、もしくは身の安全は自分で守ることができるという自信を持っており、事故をするリスクがあるような現場で重機を運転する場合でも、構わず運転するという点で両概念は繋がると考えられる。概念2と概念3は、本能的行動も母親的愛情行動のいずれも、時に攻撃的な側面を持っているという点で両概念は繋がると考えられる。概念1と概念3は、それぞれ慕ってくれている相手を助けることで自身の人生哲学に従った行動を取ったことによる満足感を得られること、そして危険な現場でも効率を重視した重機の操縦をして仕事することによって、自分のにとってはもちろん自分の会社や相手方の元請に対しても利益が出るようにしていることから、自分と他者の利益を同時に守るという点で両概念は繋がっていると考えられる。概念3と概念9は、概念9の概念における行動がまさに概念3に象徴される行動特性に当てはまるものであるために両概念は繋がると考えられる。概念8は、弟子を育てたことも、事故リスクよりも効率を求めることも、会社のために行動するという側面を持った行動であるために、概念8は概念1、2、3、9の4つの概念と繋がると考えられる。

## 6. B氏の分析結果

### 6. 1 B氏の概念生成

#### 6. 1. 1 事例群1

(小さい頃に模型づくりなどはしましたか?)

事例①「模型は小学校の時によう作ったね、僕は、新聞配達のパイトを中学1年から3年間やったけどね、ほとんど模型を買うことに使ってしまったってねえ、昔は食べることに精一杯だったこともあって、よく親父に怒られた。」

このより、一つのことに対してのめり込んでしまうと、周りの意見

を気にせずに物事に対して没頭してしまう性格であるとして定義をつけ、概念名「プラモデルへの不合理なまでののめり込み」を考案した。

#### 6. 1. 2 事例群2

(A氏から学んだことは?)

事例①「結局現場はいくつもあって、A氏とはどうしても離れられなくなってね。だから仕事終わりで毎晩毎晩、お酒飲んで話して運転の仕方を教わったね。毎晩二人でビールを1ケースぐらい飲んで、またさらに飲んでたね。」

事例②「A氏と会った時に僕は結婚したばかりで、女房のお腹に1人目の子どもがいたんだけど、僕が家に帰らずに勉強会やってたから、いつも女房に怒られてたね」

これらのエピソードより、身重の妻がいるのにも関わらず、妻のサポートよりも、A氏から重機オペレーション技術を学ぶことの方が大事だと考えて、毎晩家に帰らずにA氏とお酒を飲みながら勉強をしていたということから、概念名「妻子より師匠を選んだ新婚1年間」を考案した。

#### 6. 2 B氏の概念間の繋がり

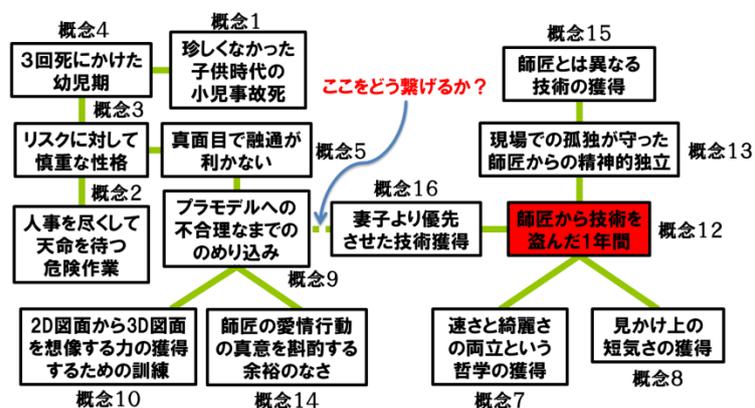
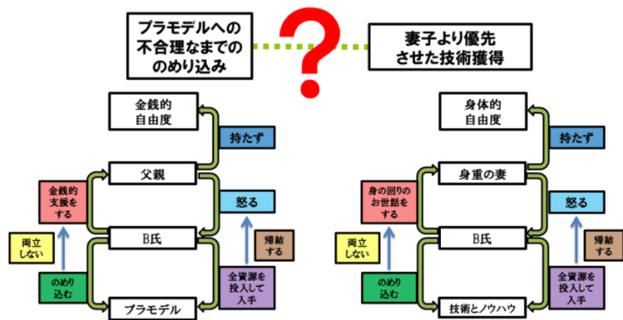


図6-1 B氏の概念間の繋がり

図6-1より、6. 1. 1の概念「プラモデルへの不合理なまでののめり込み」を主とした概念2、3、4、5、10、14がB氏の人格形成プロセスに関する概念群としてグループを成している。6. 1. 2の概念「妻子より師匠を選んだ新婚1年間」を主とした概念7、8、15、16が、B氏の技能確立に関する概念群としてグループを成している。ここで、概念「プラモデルへの不合理なまでののめり込み」と概念「妻子より優先させた技術獲得」が類似性がある可能性がある為、これについて調べた。

#### 6. 3 B氏の概念間の繋がり探求



認知科学におけるアナロジー推論の分析枠組みである「構造マッピング理論」の枠組みを用いた所、2つの概念が「構造的類似性」を持っていることが分かった。

構造的類似性の例：原子核の周りを回る電子と、太陽の周りを回る地球

図6-2 B氏の概念間の構造的類似性

図6-2で示したように、概念9「プラモデルへの不合理なまでののめり込み」と概念16の「妻子より優先させた技術獲得」は、一見すると共通点はないように思われる概念であるが、認知科学におけるアナロジー推論の分析枠組みである「構造マッピング理論」の枠組みを用いて、両概念のそれぞれの要素ごとに見ていくと、図のような構造的類似性を持っていることが分かる。

### 7. 師弟関係の成立条件

以上の図5-1と図6-1、図6-2を踏まえると、師弟関係を成立させた奇跡の1年間が何故実現できたのかを明らかにすることが可能になった。それによって3種類の条件を作ることができた。

#### 【①両者の人生哲学に関する条件】

A氏には慕ってくれている人への母親的愛情行動という行動特性があり、誰かに何かを与えるというモチベーションを持っていた。B氏にはプラモデルへの不合理なまでののめり込みという、一つのことにのめり込むと没頭してしまうという行動特性より、妻に怒られるというコストよりもA氏から技術を盗む便益が大きいと判断し、技術を盗むことに没頭した。これが双方にとって相互利益となり、師弟関係を成立させる上での条件の一つとなったと言える。

#### 【②偶然的条件】

実はA氏は、B建設に来る前に離婚して独身になっており、時間は有り余っていた。B氏は新婚1年目で、妻は身重であり、夫婦にとっては大切な時期であったが、大事な妻子との時間を捨ててでも、技術を教わりたかった。これが偶然的要因となった。また、仮説ではあるが当時A氏は独身になったばかりで、寂しさを紛らわす為に遅くまで技術を教えたことが要因だった可能性もある。

#### 【③両者の性格的相性の良さに関する条件】

①A氏は元々、幼い頃から親分的気質を持っており、B氏も幼い頃から子分的な気質を持っていた。この双方の気質が合ったことが、

結果的に両者の相性にとって良い影響を与えた。

②A氏の父親は、建設会社の社長をしており、その父親の下で働いていたことから、経営についてのことを知っており、建設会社の経営者がどういった重機オペレーターが欲しているのかということについて知っていた。だから真面目で仕事熱心なB氏に対して好感を持ち、結果熱心な技術継承活動に繋がったと考えられる。

### 8. 結論

本研究では、A氏とB氏の分析ワークシートの分析結果と概念間の繋がりを調べ上げたことによって、双方が違う視点からお互いに見て、同じ1年間でもそれぞれ全く異なる意味付けをしていることを明らかにすることが出来た。また、異なる意味づけをしている中で、何故お互いが相互関係を構築し、奇跡の1年間を実現させることができたのか、その理由を明らかにすることができた。

そして、これらの分析結果より、師弟関係が成立する条件として、

#### ① 両者の人生哲学的条件に関する条件

相当の時間的・金銭的その他のコストを払ってでも、師弟関係を成立させることの人生史的動機が双方にあること。

#### ② 偶然的条件

師匠と弟子の両者に時間的余裕があること、または時間的制約の乗り越えを許す周囲の環境があること。

#### ③ 両者の性格的相性に関する条件

例1「親分的性格の師匠+子分的性格の弟子」

例2「経営者の思いが痛いほど分かる師匠+根の真面目な弟子」

これらの条件が明らかとなった。

### 9. 参考文献

- (1) 高知工科大学 工学部 社会システム工学科 建設マネジメント研究室 宮本有矢(2011年)『我が国の建設業界における若者離れに対する改善策に関する考察』
- (2) 橋本麻未・小沢一雅(2014年)『建設業界における重層下請構造の現状と課題』建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会講演集第32号83-86ページ
- (3) 股洛・古阪秀三(2009年)『中国における建設現場の建設労働者に関する研究』日本建築学会計画系論文集第74巻第636号439-445ページ
- (4) 林雄作(1984年)『建設労働の現況と対策』土木学会論文集第349号20-25ページ
- (5) 東京大学 児玉敏男・東京大学 吉田恒昭・東京大学 國島正彦・早稲田大学 那須武秀(1997年)『建設技能者の技能評価に関する基礎的研究』建設マネジメント研究論文集 Vol.5 25-36
- (6) 大木裕子(2007年)『伝統工芸の技術継承についての比較考察—クレモナ様式とヤマハのヴァイオリン製作の事例—』京都マネジメント・レビュー第11号19-31ページ
- (7) 内平直志(2006年)『研究開発プロジェクトの知識継承：内面化についての考察』研究・技術計画第21回年次大会
- (8) 澁谷寛 東北大学大学院経済学研究科准教授(2010年)『アナロジーにもとづくソーシャル・レコメンデーション：インターネット上のクチコミ情報におけるレコメンデーション効果の実証実験』平成21年度吉田秀雄記念事業財団助成研究90-103
- (9) オスカー・ルイス(著)、柴田 稔彦(翻訳)、行方 昭夫(翻訳)(1986年)『サンチェスの子供たち—メキシコの一家族の自伝』